

## 第6学年 外国語活動指導案

日時：平成21年10月8日（木）公開授業Ⅱ  
児童：男14名 女4名 計18名  
指導者：担任 伊藤 寿一  
場所：体育館

### 1 単元名 道案内をしよう（英語ノート2 Lesson 5 P30～P35）

### 2 単元について

高学年では「生き生きとコミュニケーションをしようとする子どもの育成」を、「相手の思いを受け止め、自分の思いをしっかりと表現する子ども」と捉えて、指導してきた。

本単元では、方向や建物を表す言葉を使って、道案内の場面を設定する。道案内は、相手へ情報を的確に伝達し、情報を共有するためにいろいろな手段や方法が必要とされる。また、その過程で、相手との意思疎通が図られているかを確認しながら進める必要がある。これらのことから、道案内の活動を通し、外国語活動のねらいや本校の研究主題に迫ることができると考えた。

児童は、昨年度から年間35時間の英語活動に取り組んできており、英語自体への抵抗感もなくなり、英語を聞くこと話すことに前向きに取り組めるようになってきている。しかし、相手の思いを受けとめ聞いたり、話したりといったことは、まだまだ不十分である。また、人前に出ることに消極的で、堂々と話すことができない児童もいる。

本単元では、オリジナルタウンを作りながら、建物の名前について興味を持たせる。次に、マップを作り、オリジナルタウンを歩く活動を通し、方向や動きを表す言葉に親しませたい。それらの活動から伝え合う楽しさを高め、道案内の活動でお互いの情報を確かめ合うことの大切さに気づかせたい。

グループの活動では、目的地までの道順を協力して考えさせる中で、みんなで関わる楽しさと、助け合って情報を伝えることを体感させたい。ペアの活動では、視覚的な制限を与えることで、お互いの情報を確かめ合いながら活動する大切さを味わわせたい。（場の設定）

評価にあたっては、「Main Lesson」におけるコミュニケーションスキルを児童に提示し、その具体的な姿を与えることで、児童自身がどのように活動していけばよいか見通すことができ、振り返りが容易になるようにしたい。また、活動の様子を見合いながら相づちや確認などのコミュニケーションが取られていたかを観察したい。（評価の工夫）

### 3 単元の目標

「方向を表す言葉」「建物を表す言葉」を使い、道案内をする。

### 4 単元の評価規準

- (1) コミュニケーションへの関心・意欲・態度
  - ・英語で積極的に道案内をしようとする。
- (2) コミュニケーションのための理解・表現
  - ・方向や動きを表す言葉を理解して言う。
- (3) 日本や外国の生活・文化の興味・関心・理解
  - ・建物の名前の表現の表現から外来語に気づく。

5 単元計画

※ 評価の重点の関、理、文は評価基準の(1)(2)(3)に対応する。

時	目標と主な活動	評価の重点			言語材料	評価の観点(方法)
		関	理	文		
1	○町中にある様々な建物などの言い方に興味を持ち、理解しようとする。 ・自分の住みたいオリジナルタウンを考え、そのマップを作成する。	○		○	What's this?	・日本語との建物の表し方の違いに興味を持って聞いていたか。 (行動観察・評価カード) ・建物の名前言い方を理解する。 (行動観察)
2	○方向や動きを表す言葉を聞いて、理解する。 ・地図を用いて、オリジナルタウンを歩く。	○	○		Where is ~? Turn right, left. Go straight Stop.	・方向を表す言葉を理解し、友だちの話をしっかり聞いたり、正しく伝えようとしていたか。 (行動観察・評価カード)
3 本時	○方向や動きを表す言葉を使い、確かめ合って目的地を目指そうとする。 ・地図を使って、友だちを目的地まで道案内する。	○			OK! Next please.  one more time.	・確認の言葉や相づちを打ちながら話を聞こうとしていたか。 (行動観察・評価カード) ・状況を確認しながら適切な道順を指示しようとしていたか。 (行動観察・評価カード)
4	○実際に案内したり、案内に従ったりして目的地を目指そうとする。 ・案内を聞きながら、実際に校舎を歩いてみる。	○				・学習したことを生かして道案内をしようとしていたか。 (行動観察)

6 本時の活動

(1) 目標

方向や動きを指示する英語を使い、確かめ合って目的地を目指そうとする。

(2) 仮説に関わる具体的な手立て

「生き生きとコミュニケーションをしようとする子どもの育成」を目指すため、次の手立てを取り入れて学習活動を展開する。

①仮説1(他者との関わりを楽しく体験する場の設定)に関わって

ア 道の所々に他の友だちが立ち、通行止めの指示をすることで、目的地までの新たに道順を考えたり、情報を伝え直したり、道順を変更したりしながら道案内をさせる。

②仮説2(効果的な評価の工夫)に関わって

ア 「Main Lesson」で、案内の活動を観察させ、相手に分かりやすく伝えている点や相手の言葉を受けて話をしている点を発表させる。(相互評価)

(3) 展開

段 階	学 習 活 動		留 意 点
	児 童	指 導 者	○評価の観点(方法)
Greeting warm-up  5分	1 あいさつをする。 ・イングリッシュリーダーがあいさつをする。 ・自己紹介カードを参会者の先生方に渡す。	・イングリッシュリーダーのサポートをする。 ・参会者の先生方に、渡した意図を伝える。	・児童の反応を促すよう声をかける。 ・渡せない児童が出ないようにする。
Review  10分	2 チェスジャンケンゲームをする。 ・ルールを確認する。 ・チームに分かれ、作戦を立てる。 ・ゲームをする。	・ゲームのルールを電子黒板で確認する。 ・方向の分からない子のために、方向を示すカードで支援する。	・伝えることが不得意な児童の支援する。 ・一つの指示ごとに確認する。
Main Lesson  25分	3 本時のめあてを確認する。 <b>方向や動きを表す言葉を確認し合いながら目的地を目指そう</b>  <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">                     (リッスン)                      ・相手の言葉を理解しようとする。                      (レスポンス)                      ・必要に応じ、聞き返したり、状況を伝えたりする。                 </div> 4 宝探しゲームをする。 ・4つのグループに分かれる。 A 1人が実際歩く役、その他の児童が案内役 B ミニタウンの道の3カ所に立ち、その道を通行止めにする。 C・D 道案内の様子を観察する。 ・ミニタウンの建物に隠された、宝(カード)を見つける。 ・歩く児童は、地図を見ることはできない。 ・Bの児童が立っている道は通行止めのため、回り道をしなければならない。 ・役割を交代して行う。 ・よかった点を評価する。 5 待ち合わせゲームをする。	・今日めあてを提示する。  ・今日の活動の見通しを持たせる。 ・自己評価ポイントの具体的姿を例示する。  ・建物カードを机の上に置き、マップの町を作る。 ・ゲームのやり方を説明する。 ・道案内には、指示の言葉だけでなくどんな言葉が必要か考えさせる。仮説1 “one more time” “OK” “next,please”  ・観察するグループには次の視点で評価させる。仮説2 ①みんなで相談したり、助け合っていたか。 ②指示を確認し合いながら進めていたか。  ・めあてに迫っている場面を取り上げて紹介する。	・事前に活動計画を作り、児童の意欲を高めておく。  ・自己評価のポイントについては、活動場面を想定しながら具体的な例を示す。  ・電子黒板を活用し、視覚的に児童に理解させる。  ・積極的に友だちと関わっている場面を取り上げてほめる。  ○確認の言葉や相づちを打ちながら話を聞こうとしていたか。(行動観察) ○状況を確認しながら適切な道順を指示しようとしていたか。(行動観察)

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3人組を作る。</li> <li>・ 案内する側は、ミニタウンの並びが見えないよう仕切りの後ろから指示を出す。</li> <li>・ 案内される側は、現在地を伝えながら、目的地への指示を聞く。</li> <li>・ もう1人は指定された待ち合わせ場所で相手を待つ。</li> <li>・ 前のグループは通行止めをする。</li> <li>・ 状況が見えないとき必要な情報は何かを考える。</li> </ul> <p>・ 道案内の仕方の良かった点を評価する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゲームのやり方を電子黒板を活用し、説明する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 案内する側が、ミニタウンの状況が見えない状態であることを知らせ、どんな情報が必要かを考えさせる。 “No” “I Can't go” 「行き止まり」 “Where” “left~, right~.” 「場所を特定する」</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次の視点で、友だちの活動を評価させる。 ①指示を確認し合いながら進めていたか。 ②必要な情報のやりとりをしていたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報伝達がうまくいかない児童には、“help”と声をかけさせ、友だちや教師が教え合うようにする。</li> </ul>
End of Lesson 5分	<p>7 今日のめあてについて自己評価をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ カードへ記入。</li> <li>・ 挙手で確認する。</li> </ul> <p>8 今日の授業の感想を発表する。</p> <p>9 終わりのあいさつをする</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己評価カードに「リッスン」「レスポンス」の評価を記入させる。</li> <li>・ 二つのポイントが二重丸だった児童に挙手させる。</li> <li>・ 数名指名し、頑張っていた児童や態度について話させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己評価を記入する際、頑張った児童には良かったことを声がけする。</li> <li>・ 次時への意欲を持たせる。</li> </ul>

(4) 評価

方向や動きを指示する英語を使い、確かめ合って目的地を目指そうとしていたか。

(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)